

1 研究主題

ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける東志賀っ子

2 研究主題設定の理由

(1) ナゴヤ学びのコンパスの実現に向けて

名古屋市教育委員会は令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」を策定した。その中には、「全ての子どもは、適切な環境とそれを支える仲間・大人に出会うことで、自ら学びを進め、深めていく存在であるという意味で『有能な学び手』である」と示されている。このことから、教師主導で進められてきた現行の学校教育の在り方を見直し、子どもたちが主体となって学習に取り組むことができるような学習スタイルの確立が必要であると考え。さらに名古屋市は、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子ども」を目指したい子どもの姿として、名古屋市の小中学校が目指していく大きな指針を示している。

以上のことから、ナゴヤ学びのコンパスの示す「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子ども」を育成するために、本校の児童の実態に即した学習スタイルについて考えいくことが必要である。

(2) 児童の実態

昨年度まで、考えをもつ力、考えを伝える力を高める指導の仕方を研究してきた。SDGsをテーマに課題探究型学習を進める中で、以下のような成果と課題が顕在した。

- 調べ学習に意欲的に取り組むことができる児童が多い。
- 調べたり、まとめたりすることに対して意欲的に取り組む姿が多く見られた。
- 学習意欲や学習内容の定着度の差が大きい。
- 自分の思いを伝えることが苦手な児童は極端に苦手である。
- 教師の指示がないと学習を進めることができない児童が多い。
- 調べる場面やまとめる場面において、教師の指示した方法を行うのみで、自分なりに工夫する姿はあまり見られなかった。

(3) 本校の具体的な取り組み

「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもの育成」を目指し、昨年度まで進めてきた課題探究型学習の指導法・支援の方法をさらに探究していく。様々な教科の学習において、課題設定、調べ学習、まとめ、発表という学習活動を以下のように進めていくことで、ナゴヤ学びのコンパスの示す目指す子どもの姿に迫ることができると考え、研究主題を設定した。

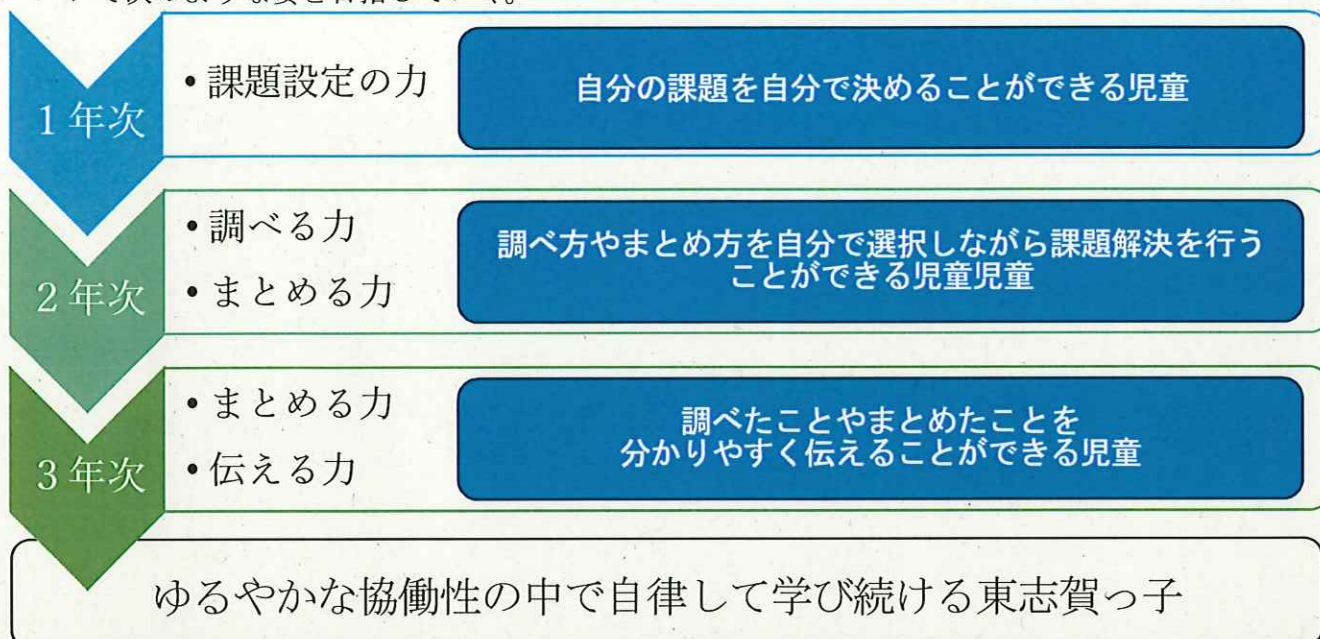
学習段階	課題設定 (令和6年度)	調べ学習 (令和7年度)	まとめ (令和7年度)	発表 (令和8年度)
児童の活動	○ 大テーマから知りたいこと・調べたいことをテーマに設定する。	○ 自分のテーマについて様々な手段で調べる。	○ 学習成果をまとめる。	○ 調べたことを伝える。
教師の役割	○ テーマとの出合わせ方の工夫 ○ 子どもにあった課題設定への助言	○ 調べ方の例示と助言 ○ 協働学習の場を設定	○ まとめ方の例示 ○ 分かりやすくまとめるための助言	○ 伝える場の設定
研究計画	1年次	2年次	3年次	

- 1年次 課題設定の場面（単元の導入）において、テーマとの出合わせ方を工夫したり、子どもにあった課題設定ができるように助言したりすることで、課題設定の力を伸ばすことができるようにする。
- 2年次 調べ学習の場面において、調べ方の例示をしたり、調べ方の助言をしたりして、調べる力を伸ばすことができるようにする。また、まとめの場面において、まとめ方の例示をしたり、助言をしたりすることで、学習成果をまとめる力を伸ばすことができるようにする。
- 3年次 発表の場面において、伝える場の設定を工夫することで、調べたことを伝える力を伸ばすことができるようにする。

3 実践の進め方

(1) 目指す子ども像

「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける東志賀っ子」とは、自分の知りたいと思うことをテーマ（課題）に設定し、様々な手段で調べまとめる活動を通して、学び方を身に付け、生涯にわたって学ぶ姿勢を持続する子どもと考える。前述した課題探究学習の各学習段階において次のような姿を目指していく。



(2) 手立てについて (例)

課題設定の力を育てる手だて

- テーマとの出合わせ方の工夫（画像・動画の活用、発問、問題の工夫など）
- 子どもの興味・能力にあった課題を設定できるような助言の仕方

調べる力を育てる手だて

- 調べ方の例示（インターネットの検索の仕方、図書の探し方、インタビューの仕方など）
- 調べ方の選択肢を広げることができるような助言の仕方

まとめる力を育てる手だて

- 「誰に」「何のために」「何を」などの相手意識や目的意識などをもたせる工夫
- まとめ方の例示

※ プレゼンテーションや新聞、ポスターなど、複数のまとめ方の中から、一番自分の考えをまとめ方子ども自身が選択することができるように促す。

伝える力を育てる手だて

- 話す速さ、間、声の大きさなど、場に応じて話す技術の指導
- ポスターや新聞など、相手に伝わる構成の工夫への助言

ゆるやかな協働性の中で学ぶ場の設定

- 情報交換やアドバイスタイムなど、友達と一緒に学ぶ場の設定

※ 「友達と相談しましょう」と投げ掛けるのではなく、子どもから「友達と相談したい」「友達に聞いてもらいたい」と子ども自身が友達と一緒に学びたいという思いをもつことができるようにする。

すべての学習活動において、教師主導で学習が進むのではなく、子どもたちが自ら学びに向かって動き出す姿を引き出すことができるようにしたい。

4 活動の流れの例

(1) 国語「のりものカード」でしらせよう（1年）

「はたらくじどう車」を学習した後、自分が知らせたい自動車について紹介する「のりものカード」を作る活動を行う。のりもの好きな子どもは数多くの自動車を知っているが、興味のない子どもにとっては「どんな車があるのかな」というところがスタートになる。課題を決める場面において、児童自身が紹介したい車を決めるところが課題設定となる。

また、まとめる際には、自動車の「なまえ」「やくわり」「つくり」について紹介する形になる。これは、「はたらくじどう車」の内容と同様となっており、1年生の児童にとってもどの情報を調べる必要があるのかは分かりやすいと思われる。そこで、「何を調べていいのか分からない」という子どもに対して、「はたらくじどう車」を想起できるような助言をしていきたい。

学習段階	課題設定 (令和6年度)	調べ学習 (令和7年度)	まとめ (令和7年度)	発表 (令和8年度)
児童の活動	○ 自分が調べたい自動車を決める。	○ 教師が用意した図鑑から、必要な情報を集める。	○ プリントをもとにカードを作成する。	○ プリントをもとに友達と紹介し合う。
教師の役割	○ 「のりもののひみつカード」を作ろうとテーマを示す。 ○ 図鑑や写真を数種類用意し、紹介したい自動車を考えさせる。 ○ 実際に乗ったり見たりしたことのある自動車でもよい。	○ 図鑑以外の調べる方法を事前に確認しておく。 ○ インターネットを利用する際には、事前におすすめサイトを調べておく。 ○ プリントに名前、役割、つくりを記述させる。	○ まとめ方の例示 ○ 分かりやすくまとめるための助言	○ 伝える場の設定
		○ 協働学習の場を設定		

5 研究の組織

